

さがみはらの

たこ【凧】



南区新戸



日本と世界の凧が集まる

新磯ふれあいセンター・相模の大凧センター

Note

神奈川県相模原市南区新戸2268-1 ☎046-255-1311

開館時間/9:00-18:00

休館日/年末年始 ※臨時に休館する場合があります。

<http://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp/renge>



圏央道 圏央厚木ICより約10分/相模原愛川ICより約15分

世界や日本各地域の伝統的な凧が何百枚もコレクションされており、ユニークで迫力ある様々な凧を見学できる。なかでも印象的なのが、悪魔を追い払う絵柄の凧で、その国の歴史やアートを感じられる。地元の菓子屋では、大凧をモチーフにしたサブレーが名物だとか。



大きさ128畳、重さ約1トンの世界一の大凧 南区新戸

相模原が誇る大凧は見る人を虜にする。天保年間に子供の誕生祝いに行われていた凧揚げが、1895(明治28)年に新戸村で大凧揚げと発展し、今も“相模の大凧まつり”として受け継がれている。現在は毎年5月4日・5日に相模川河川敷のグラウンドで実施され、約17万人もの観光客が集まる。まつりで使用される大凧は、竹の収穫・骨組み・紙はり・縄入れ・文字書きと、昔ながらの手法で地元の有志により、半年をかけて作られる。「大凧まつりは、地域一帯に



結束をもたらす行事として続いています。作る人、操る人、そして見る人の思いが一つになり大凧が揚がる瞬間はとても感動的です」と語るのは『相模の大凧文化保存会』の川崎勝重さん、加茂憲明さんだ。

「相模の大凧センター」では、地域ボランティアが教えてくれる凧作り体験のほか、国内外の伝統的な凧が何百枚もコレクションされ、珍しい凧も展示されている。

圧倒されるのは、天井を覆うほどの相模の大凧だ。実際にまつりで使われていた凧と同規模という、年季が入った大凧を見上げていると、代々受け継がれた伝統の重みと同時に、地域の人たちの愛情をひしひしと感じた。

